

2021年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会

幼保連携型認定こども園
幕張海浜こども園

1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性(自立性・自立心・自律性)を重んじ、社会性の芽生え(協調性・連帯性・責任意識)を育て、個性が伸びる創造性(興味・集中力・探求心)のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

- 心の清い正直な人間(良心教育)
- 心の豊かな明るい人間(情操教育)
- からだの丈夫な強い人間(健康教育)
- 動作の機敏な人間(安全教育)

2. 本年度の重点課題

1. コロナウイルス感染症対策を行ないながら保育環境を整え、提供をする。
2. コロナ禍の中でも保護者に保育の様子を伝え、情報発信をしていく。
3. 3歳未満児クラスにおける保育の環境構成と子どもの関わり方について研究し、個々の子どもの安定した成長の保障を図る。
4. 3歳以上児クラスにおける保育の環境構成や活動・教材についての研究し、子どもの発達・学習が促進される保育・就学前教育を計画的に実践する。
(教材研究、保育準備、記録、次月準備の時間の確保など)
5. 課題の改善(保育者間連携・協働)の工夫に努める。
6. 保育者の資質向上を高めるために話し合いを行ない、保育を提供出する。
7. キリスト教保育について、経験層ごとに学びを深め実践する。(園内研修の実施)
8. 前年度実施した学校評価における課題について取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E(取り組みが行われていない)で表している。)

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価結果	意見
教育保育方針	1	子どもの発達に合わせたカリキュラムを元に日々の活動計画を行う。又、活動計画に込められたねらいをクラス職員が実践し、こどもの成長に繋げようとする。	A	カリキュラムを元に具体的な活動計画を主任と園長で確認をし、具体的な活動として保育におろしている。日々のクラスミーティングの中で活動のねらいや目標、実際に取り組んでみてのこどもの様子を職員間で話し、実践に繋げられるようになっている。今後の課題として、現在は活動計画後にクラス間で話し合いが行われているので活動計画作成時にも職員同士で検討していきたい。	A	コロナ禍でマスクを日常的に着用し、表情が見えにくい中で、コミュニケーションを大切にしていることは良い点である。活動計画に向けてクラス内で話をする事を定着させ、必要に応じて主任も話し合いに参加しながら、一人ひとりの子どもの成長発達に合った保育を行っていきけるようになればいいのではないかと。
	2	栄養士と保育者が連携をとり、子ども達に経験して欲しい活動や学びを提供する。 ※資料1	A	コロナ禍でも感染予防を行いながら食育活動を行ってきた。又、調理をすることだけではなく、給食のメニューを通して季節や行事を感じられ取り入れてきた。又、毎日栄養士と担任と一緒に食事の確認をしながら連携をとっている。引き続き、クラス担任と一緒に食育活動の計画立てを行なっていきたい。	A	今年度も感染症対策を行いながら食育活動に取り組むことができたことは良い点である。今後は、こどもからの評価をどのように行っていくか検討できると良い。
特色ある保育の展開	3	0歳から12歳までの子どもを預かる施設として、こども園と学童の職員が連携を図る。	A	学童の様子を職員会議の場で伝える事で以前より連携が図れるようになった。又、学童の子どももこども園の職員と関わる事が以前より増えてきている。今後も職員同士が連携を図り、保育の提供を行なっていきたい。	A	卒園しても継続して関わる事ができる環境があるのは良いことである。また、コロナ禍により子どもたちの遊ぶ場が減ってきている中で、幅広い年齢の子どもたちが一緒に遊べる環境があることは良いことである。

	4	キャリアパスファイルを参考にしながら、保育計画に活かしていく。 ※資料2	A	今年度は研修委員会が主になり、毎月の絵本や季節の歌・童話・聖話・讃美歌の確認準備を行なう事ができるようになった。今後の課題として、職員が内容や意味を理解した上で子どもたちにおろしていけるように各教材の準備時期を早め、保育に活かしていく。	A	研修委員会の活動によりキャリアパスファイルが定着してきていることは良い点である。今後は、研修委員会に所属する職員だけでなく、全職員の意識を変えられるよう取り組めると良い。
保育環境の充実	5	保育室が「教育的配慮のある環境構成」になるように工夫・改善していく。また、主体的な生活を送れるよう環境作りを行う。	B	学年ごとに差が見られていたが、子どもが遊びたい物を自発的に手にとり、遊べる環境を作ってきた。今後の課題としては学年単位ではなく乳幼児会議の中で環境について考え、こどもの成長に合わせた保育環境が整えられるように定期的に検討の場を設けていく。	A	自宅では興味を持たなかったことも、園では取り組んでいることが多くある。お箸の練習なども子どもが積極的に取り組んでくれるようになった。今後も成長に合わせた保育環境を整えていってほしい。
保護者との連携	6	日々の子どもの様子を伝えるため、InstagramやFacebookページ、降園時や連絡帳などで、保護者の思いを聞き、個々の様子について知らせる。 ※資料3	B	日々の様子を伝えるため、Instagramや掲示物の作成、クラスだよりのお知らせの活用などを行ないながら情報発信をしてきた。今後の課題はコロナで個人面談や保育参観など保護者と直接話をする機会や保育の様子を見てもらう機会が減っている為、連絡帳の活用方法の見直しやInstagramの定期的な更新が出来るようにしていきたい。	A	コロナ禍で、行事の中止や縮小があり、参加できない保護者もいる中でインターネットの配信を通じて、楽しむことができおり、よかったと感じた。Instagramや掲示物により行事だけでなく、日常生活の様子がわかるのは良い。
	7	園内行事を通して保護者に保育の様子を伝える取り組みをする。 ※資料4	S	誕生会や夏祭りでは動画配信、運動会やクリスマス祝会では感染予防を行ないながら例年とは異なる学年入れ替え制で保護者を招待する事が出来た。保護者を招待することで子ども達も保護者に見てもらった事を喜び、又、保護者の方も子どもの成長を身近に感じる事が出来た。今後の課題は日々の保育の様子を発信を行なっていく。	S	クラスだよりでの個人メッセージもあり、園内での様子がよくわかる点も良いと感じる。今後も継続してほしい。

保育者の資質向上・連携	8	職員の共通の理解の元、保育の質の向上を目指せるよう、日々の振り返りを行なう。	A	毎日のクラスミーティングは定着はしている。ミーティングではより良い保育が出来るように、職員同士が意見を出し合い、振り返りを行なっている。職員同士がこどもの成長を理解し、共通の思いで保育が提供できる様に継続して行ない、併せて主任も参加しながら保育の方向性を導いていく。	A	保育の質を向上する上で、話し合いは大切であり、クラスミーティングが定着していることは良いことである。
	9	保育準備時間(保育書類・保育準備・話し合い)等の確保を行う。 (業務の効率化)	B	以前は子どもと職員と一緒に食事を行っていたが、感染対策の為、職員の食事時間と場所を分けることを優先した。その為、保育準備時間や場所の確保が難しかった。今後の課題は全職員で協力しながら保育準備時間の確保を行なっていく。	A	職員同士で話し合っ保育準備時間を確保していくことが必要である。また、作業効率を上げられるよう、互いに助言し合う関係性も必要である。
	10	職員同士が意見交換を行ないながら、同じ目的や目標に向かって課題についての取り組みを行なう。	A	二法人の職員が定期的に集まり、各園の課題や取り組みについて意見交換を行なってきた。会議の場で決まった事や取り組みを委員会のメンバーが中心となり園におろし、取り組んでいる。引き続き活動を行ないながら質の向上を目指していく。	A	園内だけでなく、二法人の職員で話し合いが行われているのは良い。今後も継続し、課題に取り組んでいくことが大切である。
危機管理	11	コロナ禍に対応した保育が提供できるよう考え、実施に繋げる。	S	感染対策を行ないながらも子ども達が遊べる方法や生活方法を考え、保育の提供を行なってきた。引き続き、感染予防を行ないながら保育の提供を行なっていきたい。	S	
	12	インシデントやヒヤリハットを基に具体的な事故防止に努める。 ※資料5	B	今年度は動静把握や職員連携が原因でのインシデントが多く見られた。事故が起きた際は職員に周知を行なってきた。引き続きインシデントが起きた際の報告書作成を徹底し、インシデントの閲覧だけではなく再発防止の為にヒヤリハットマップの活用や定期的に振り返りを行ない再発防止に努めていく。	A	小さなケガでもお迎えの時に伝えてもらえるので、安心できる。 インシデント・アクシデント報告書の記入項目が多いと感じる。すぐに報告ができる様式が必要とも考えられる。事故などの発生後、1か月を目安にヒヤリハットの見直し、事故後の状況を確認することが今後の課題となる。
	13	降園時間帯に近隣の方の迷惑にならない様、職員が交通整理を行なう。	S	降園時間帯は職員による交通整理を行なうことで近隣の方への配慮や保護者の駐車に対する意識の変化も見られる。誘導の仕方を徹底しながら引き続き行なっていく。	S	

(目的)

乳幼児の教育・保育活動その他施設運営について目標を設定し、その達成や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。

(評価)

自己評価は、幕張海浜こども園の職員(保育教諭、栄養士、調理師、事務員、一時預り専任者等)によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

学校評価関係者による評価は、幕張海浜こども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の延長ほか、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

(評価時期)

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年1回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2011年／2016年／2021年

(報告)

学校評価の結果は、保護者および地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

(評価委員とその任期)**自己評価者**

1	園長:千葉諭、主幹保育教諭:浦裕美、東里紗 保育教諭:藤井梨津子・田崎萌乃・福田茉衣子・薮田央穂・三浦和佳
---	---

評価委員(2021年度)

		役 職	氏 名(敬称略)
1	幕張海浜こども園に在籍または卒園した園児保護者	現保護者会 会長 卒園児代表	吉野亮子 松井龍行
2	地域関係者	社会福祉協議会幕張西地区部会 会長	平野悦子
3	姉妹園	社会福祉法人愛の園福祉会 第2幕張海浜保育 園長	福嶋悦子
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年間とし、再任を妨げない。また、任期途中に地域の役職が変更された場合は、後任者と相談の上、引き継ぎを決定する。